



心のバリアフリー学習



大曲支援学校ポッチャ交流

「障がい者理解（心のバリアフリー）学習」は、本校教育活動の大きな柱の一つとなっています。今年も秋田県委託「人権ユニバーサル事業」を活用し、「心のバリアフリー学習」を推進します。この学習は障がい者理解教育を核とした様々な体験活動に、道徳、特別活動、各教科の学習をリンクさせて、生徒の心を育む多様な教育活動を展開しようとするものです。大仙市教育委員会のパンフレットには、次のように書かれています。

「心のバリアフリー」が実現した社会は、相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える、全員参加型の共生社会です。

そのためには……

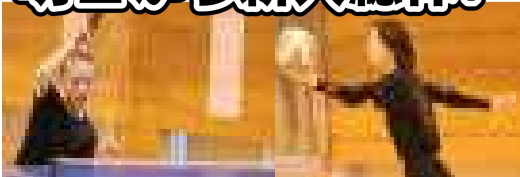
- 障がいのある人とない人が互いに理解し合うこと
- 障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたち、及び地域社会の人たちが、触れ合い、共に活動することが大切です。



昨年度は、コロナ禍の影響により、残念ながら大曲支援学校との交流は実現できませんでしたが、今年度は、9月21日に1年生は大曲支援学校を会場に、2年生は本校に支援学校の2年生に来ていただいて、それぞれでポッチャ交流を行うことができました。初めは緊張感に包まれた雰囲気でしたが、パラリンピック種目の一つであるポッチャを通して、次第に打ち解けてほのぼのとしたムードへと変わっていきました。交流終了後、大曲支援学校2年生の一人の男子生徒さんが私のところに駆け寄り、「今日はありがとうございました。」とあいさつしてくれました。自主的な行動です。近くにいらしゃった支援学校の先生が、「いつもはとても元気で、ムードメーカー的な生徒なのに、今日は緊張のあまり静かでした。」とお話してくださいました。大人でも、知らない場所で、知らない人たちに囲まれて過ごすには勇気がいります。しかも、交流のための十分な時間も確保できなかったことを申し訳なく思っていました。それでも進んで感謝の言葉を述べ、「楽しかった。」と笑顔で話してくれた生徒さんのおかげで、清々しい気持ちになりました。限られた時間の中ではありましたが、両校の生徒にとって充実した一時であったように感じます。今後は更に、1年生の障がい者体験学習（菜の花タイム）や3年生の車いすバスケットボール体験も予定しています。現状でできることを、できるだけ子どもたちの心の育みに生かせる形で行っていきたいと考えています。

の先生が、「いつもはとても元気で、ムードメーカー的な生徒なのに、今日は緊張のあまり静かでした。」とお話してくださいました。大人でも、知らない場所で、知らない人たちに囲まれて過ごすには勇気がいります。しかも、交流のための十分な時間も確保できなかったことを申し訳なく思っていました。それでも進んで感謝の言葉を述べ、「楽しかった。」と笑顔で話してくれた生徒さんのおかげで、清々しい気持ちになりました。限られた時間の中ではありましたが、両校の生徒にとって充実した一時であったように感じます。今後は更に、1年生の障がい者体験学習（菜の花タイム）や3年生の車いすバスケットボール体験も予定しています。現状でできることを、できるだけ子どもたちの心の育みに生かせる形で行っていきたいと考えています。

明日から新人総体!



明日から、1、2年生にとっては、公式戦のデビュー戦となる郡市新人総体が始まります。各部とも、十分な態勢とは言えない状況ではありますが、そんな時だからこそ、自分のできることを最大限に発揮すべく頑張ってくれるに違いありません。「人に勝つより、自分に勝て」の精神で臨んでくれることを期待しています。ご声援とご協力をお願いいたします。